

- 01P 事業① ファンドレイジング事業
- 02P 組織体制
- 03P 事業② 居場所事業
 - ー マチノワみんなのお茶の間
 - ー こころの保健室
 - ー 助産師の日
 - ー 赤ちゃん食堂
- 04P ー 企業との協働
- 05P 年間活動計画
- 06P ヒアリング評価
- 07P 事業評価
- 08P 応援メッセージ
- 09P 今後の事業計画

親も、 地域も、 育ちあう。

2025年度 活動報告

みんなが子育てに関心を持って、育ちあうマチ。

第一子出産後に「産後うつ」を経験し、第二子を「コロナ禍」で出産しました。孤独感が深まる世の中で「自分と同じように産前産後の孤立でつらい思いをする人を減らしたい」との思いから、2021年に活動をはじめ、2023年にNPO法人化。おかげさまで、今年で活動は5年目を迎えます。私たちが向き合っているのは、孤独孤立や産後うつといった社会課題、そして、妊娠・出産・子育て期に生じる不安や負担感です。

地域のつながりが薄れた今、「ひとりじゃない」と思える安心の居場所を通して、人と人がゆるやかに支えあい、育ちあう関係を築いています。その体験が、次の一歩につながると信じています。本報告書では、2025年度の取り組みと成果を振り返ります。WAM助成事業2年目として居場所機能をさらに磨き、地域の関係機関や企業の皆様と連携しながら、支援体制と法人基盤の充実を進めてまいりました。

今後も、地域の皆様とともに、安心して暮らせる地域づくりに取り組んでまいります。これまで支えてくださった皆様へ、心より感謝申し上げますとともに、今後とも変わらぬご支援を賜りますようお願い申し上げます。



特定非営利活動法人
徳島の子育てに伴走する会マチノワ
理事長 白桃 さと美



独立行政法人福祉医療機構
WAM助成 社会福祉振興助成事業



「徳島新聞デジタル」で
マチノワコラム掲載中!



Issue
課題

課題1

**子育て家庭の
孤独・孤立の深刻化**

核家族化、晩婚・晩産の進行、少子高齢化などを背景に、子育て家庭、とりわけ**妊娠期～産後期の孤独・孤立が深刻化している。**

その結果として、**産前産後のうつや自殺、産後クライシス**による離婚、虐待、貧困、不登校、離職など、個人の問題にとどまらない複合的な社会課題が顕在化している。

地域で妊娠・子育て中の人々が孤独や不安を抱える一方で、その孤独は他世代へも広がっています。

課題2

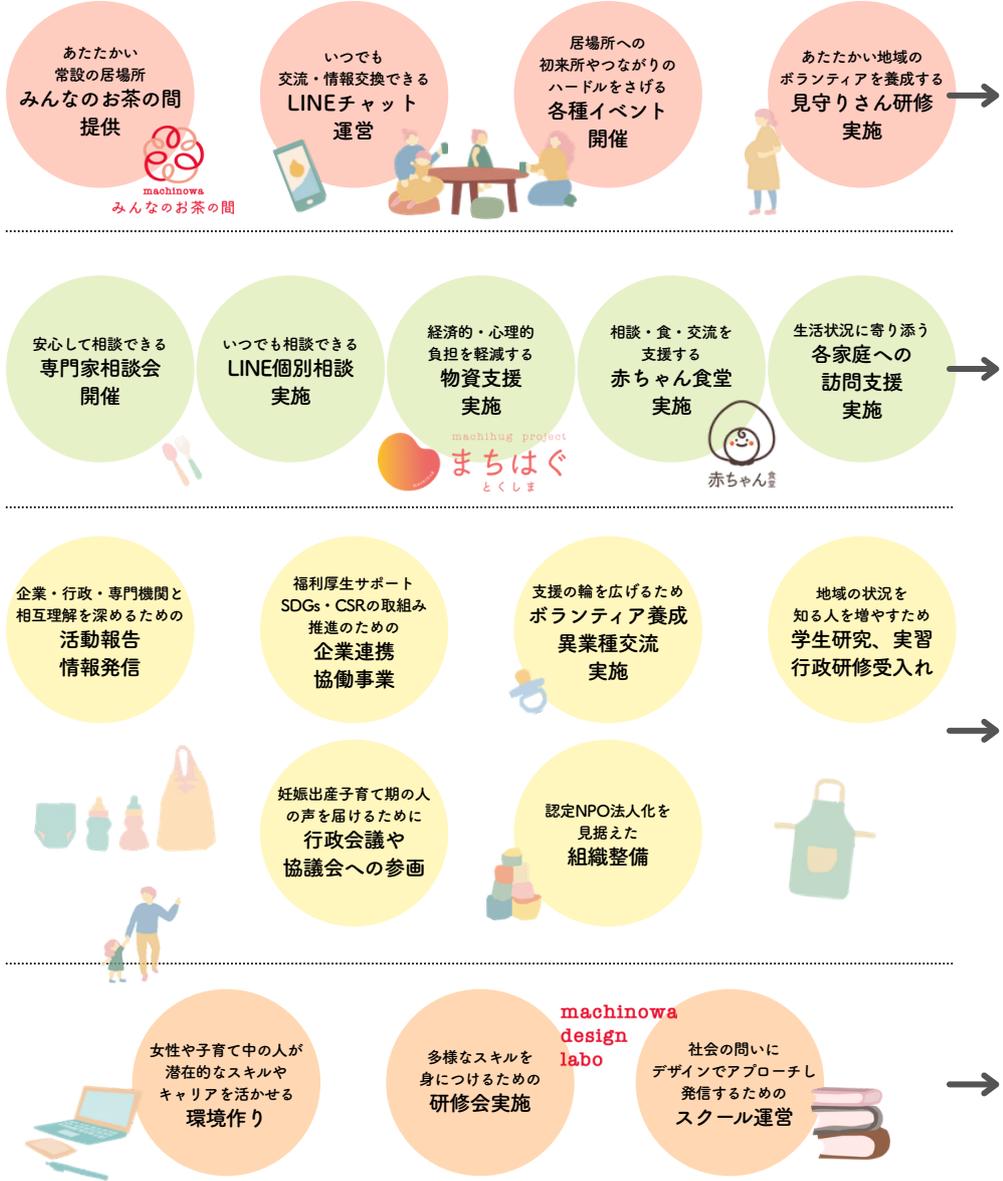
**女性の生き方・選択が
尊重されにくい社会構造**

女性においては、妊娠・出産・子育てと、仕事との両立、多様な生き方や選択が、十分に尊重・支援されてきたとは言いがたい現状があります。

その結果、「頼ること」「助けを求めること」が、個人責任として抱え込まれ、孤立や自己否定を深めやすい構造が生まれています。

Outputs

アウトプット



事業① ファンドレイジング事業

想いに見える化し、協力が循環する仕組みへ

専門家の継続的なアドバイスを受けながら、活動の目的から成果に至るまでの道筋を整理し、共通指針となるロジックモデルを構築することで、持続可能な基盤づくりに取り組みました。これにより、活動の「軸」を関係者で再確認し、事業計画の精度を高めることができました。あわせて、広報委員会を中心に企業や個人の方々へ、スポンサー協力をお願いを行い、継続的な協体制の構築を進めました。その結果、支援の輪の拡大が進み、ネットワーク強化や資金調達にもつながりはじめました。



准認定ファンドレイザー
澤田 みのり

目の前の人の困りごとに真摯に向き合い続けてきたマチノワさん。ロジックモデルを作成し、可視化したことで、改めて活動の価値と目指す社会を確認することができました。想いに共感が生まれ、地域全体での支え合いにつながっていくと感じます。

特定の家庭や個人だけが「子育て」を背負うのではなく、みんなが関心を持って、関わりあい、育ちあう関係性へとひらいていく。

「育ちあう」とは・・・
 ● 影響しあう ● 変化しあう ● 支えあう ● 応援しあう
 ● 繋がりあう ● 理解しあう ● 学びあう ● 受け入れあう
 こうした関係性が暮らしの中に自然に存在するマチを目指す。

Immediate Outcomes
短期アウトカム

- 妊娠～子育て期の人同士が、悩みや負担、不安、情報を気軽に共有できている。
- 安心して過ごせる居場所があり、不安や緊張がやわらいでいる。
- 地域の中で受け入れられ、役割や活躍の場を持っている。

Intermediate Outcomes
中長期アウトカム

**居場所
つながり支援**
＝孤独への支援

妊娠～子育て期の人安心してつながれる関係性を持っている。「ひとりではない」と感じられ、孤独感が軽減している。互いに支えあう、ゆるやかなつながりが日常に育っている。

Impact
最終アウトカム

**マチ全体で
こどもを支える
体制を築く**

家庭・企業・地域の3者がそれぞれに役割を持ちながら協働し「子育て家庭を孤立させない「マチモデル（仕組み）」が継続的に機能している状態

家庭	安心して、頼ったりつながったりできている
企業	応援する側として関わる循環に参加している
地域	支援資源が可視化され機能している

体制	誰が何をやるかが定着していて役割分担と連携が続く状態
仕組み	つながる手順が明確で流れ・ルール・導線がある
モデル	他地域にも説明・展開できる再現可能なパッケージ

- 困りごとを一人で抱え込まず、相談できている。
- 必要に応じて、適切な相談先や支援資源につながれている。
- 生活上の不安や負担感が軽減している。
- 医療・福祉・行政・専門職などに安心して相談できる感覚が高まっている。

暮らし支援
＝孤立への支援

困りごとが顕在化する前から、適切な支援資源につながれている。必要な時に相談・支援を利用できる状態が定着し、孤立が緩和。生活の不安や負担が軽減し、暮らしが安定している。

- 妊娠～子育て期の人声、地域・企業・行政・専門機関に届きやすくなっている。
- 活動を支える支援者層（ボランティア、企業、専門機関、専門職）が増えている。
- 地域・企業・行政・専門機関からの理解・協力が広がっている。
- NPO法人の財政・組織運営の安定性が高まっている。

地域支援
＝相利共生

家庭・地域・企業・行政・専門機関が、それぞれの役割を担い協働できている。支援する側／される側に、固定されない循環が生まれ、相利共生の関係性が広がっている。地域資源が可視化され、連携が機能している。

- 行動に踏み出す人が生まれている。
- 自分の状況に応じて、働き方や関わり方を選んでいる。
- 自分の経験や強みを活かせると感じている。
- 新しい働き方や活躍の選択肢を持っている。

**エン
パワーメント**
＝自分で選べる力

妊娠～子育て期の人生き方・働き方・関わり方の選択肢が広がり、状況や希望に応じて自ら選び、行動できている。経験や強みを活かし、担い手として関わる人が増えている。

組織体制

マチノワでは、事務局・事務局が実務を担い、総会・理事会が運営方針を決定し、マネージャーが連携を支える。監事が監査を行い、外部顧問が助言する体制を整えています。

 理事長 グラフィックデザイナー	正会員	 川本 晃	外部顧問	 小川 浩司 徳島県司法書士会 副会長
 理事 看護師（小児看護）	 秋山 哲寛 合同会社ふるうる 代表 統括管理責任者・保育士	 後藤 真美 一般社団法人キラニコ 代表理事	 苛原 稔 徳島県産婦人科医会 会長	 姫田 知子 四国大学短期大学部 幼児教育保育科 准教授
 理事 心理士	 枝川 久美子	 白桃 真知	 林田 寿美礼	 保岡 伸聡 社会福祉法人あさがお福祉会 理事兼法人統括施設長
 監事 岩佐誠志税理士事務所・税理士	 大谷 愛奈 作業療法士	 山田 健代 助産師	 森脇 智秋	 一般社団法人 徳島県助産師会 会長

事業② 居場所事業

地域で産前産後を迎える方へ、あたたかい「出会い」や「安心」を届ける



妊娠中や子育て中の家庭、そして地域のみなさんが気軽に集まり、安心して過ごせる居場所を週5日ひらいています。妊娠・出産・子育ての中で感じる孤独や不安、悩みを抱える人同士がつながり、支えあい、地域全体でこどもを囲み、育てていく文化を育むことを大切にしています。

この取り組みは、シズ認定こども園、徳島県公認心理師・臨床心理士協会、徳島県助産師会と連携して実施しています。専門職の知見と、日常の居

場所のあたたかさを重ね、必要なときに相談や支援につながりやすい環境づくりを進めています。

私たちが目指しているのは、家庭や育児の状況にかかわらず、すべての人があたたかく迎えられる場です。

とくに、子育てに悩んでいる人、つながりや頼れる人が少ない人など、支援が行き届きにくい方々に寄り添う活動を続けています。活動は、日常の悩みを分かち合う茶話会、親子で楽しめるイベントや講座など、多岐にわたり、

それぞれの場で自然な交流が生まれ、地域のつながりが広がっています。私たちは、ただ支援を届けるのではなく「共にいる」ことを活動の中心に据えています。

おとなもこどもも、安心して笑顔で過ごせる地域へ。この場で生まれたつながりが、それぞれの暮らしを少しでも豊かにするきっかけになることを願っています。地域の力を信じ、未来をつくる活動を、これからもみなさんとともに続けていきます。



みんなのお茶の間

machinowa

にんぷ・おやこ・ちいき・みんなの居場所

沖洲の徳島県立施設内で妊婦さんや親子（0～2歳頃）、地域のみなさんの居場所を開いています。赤ちゃんを囲んでおしゃべりしたり、お茶をのんだり、ほっと一息ついてみませんか。お気軽にどうぞ。

毎月のイベント（交流・サポート・講座）

- ・はじめてさんの日
- ・小児救急講習
- ・県外出身者の日
- ・えほんの日
- ・親子の誕生日会
- ・見守りさん体験
- ・親子体操
- ・ハイハイレース
- ・発達相談の日
- ・リトリート（整体・ヨガ）
- ・医療的ケア児の日
- ・ファミサポ登録会 など

開所：10時～14時 参加：無料（一部有料）・予約不要
住所：徳島市東沖洲1丁目8 東部防災館おきのすインドアパーク3階
対象：妊婦・生後1ヶ月～2歳頃のこども連れの方やそのご家族
駐車場150台 / 飲食OK / 授乳スペース・お湯・電子レンジあり

公式LINEに登録の上、居場所利用の会員登録をお願いします



公式LINE



こころの保健室

月1回、徳島県公認心理師・臨床心理士協会の心理師が相談を行う心のケアの場です。子育て期の不安や悩みを安心して話せる場として機能しています。



マタニティサークル

妊娠期の方が安心して集い、出産や子育てへの不安を共有できる交流の場です。心と身体の準備を支え、出産後の居場所利用継続率は100%です。



赤ちゃん食堂

保育園を会場に離乳食中期～後期の赤ちゃんとおとなの食事を提供する食と育児のかけこみ寺。保育士や栄養士による相談の場としても機能しています。



助産師の日

月1回、徳島県助産師会の助産師から育児方法を学べる日です。個別相談も行い、母親の身体の不調や子育ての悩み・不安の軽減につなげています。



赤ちゃんの日

孤立しやすい生後1～4か月の赤ちゃんや保護者が、安心してはじめての仲間づくりができる場です。交流を通して孤立感をゆるやかに和らげています。



お茶の間マルシェ

出店は地域の応援者で構成され、地域とゆるやかにつながる場として、パンやお菓子、雑貨など暮らしに寄り添う商品を取り扱っています。



公認心理師
小西 友

こころに寄り添う、立ち寄れる場所

「こころの保健室」は妊産婦さんが安心して気持ちを言葉にできる場として機能しました。夫婦関係や人間関係、不安やしんどさなど心の悩みが多く、話すことで楽になったとの声もあり、必要に応じて医療へつなぐ役割も担い、孤立予防の場となりました。



スタッフ・保育士
あーちゃん

つながりを感じられる居場所へ

情報があふれる時代だからこそ、顔をあわせて話し、安心や信頼を感じられる場を大切にしています。その日の気持ちにあわせてふらっと立ち寄り、集うみなさんと悩みや喜びを分かちあいながら、こどもの成長を見守りあえる場をていねいに支えていきます。

企業パートナー・スポンサーとの協働実績

※2025年11月頃までに企業パートナー・スポンサーとしてご支援くださった企業様を中心にご紹介しております。

子育てを支える仲間として、企業の皆様とマチを育てる

企業の皆さまとの協働は、物資や資金の提供にとどまらず、地域全体で妊娠～子育て期を支える仕組みづくりへと広がっています。パートナーシップやスポンサーシップは、企業の社会的価値を高めると同時に、地域の未来をともに育てる取り組みです。一社一社の関わりが重なり、支えあい地域に根づいていくことを実感しています。今後も連携を深めてまいります。

地域連携・物資提供

株式会社テレコメディア様



企業パートナーとして、居場所の親子へのお菓子のご提供に加え「徳島テレコベース」での講座開催や発信連携を通じ、多世代の活躍を支え、地域が活性化する仕組みづくりとともに進めていただいています。



執行役員 徳島支社長
酒池 由幸 様

弊社では、とくしま人材未来育成拠点「徳島テレコベース」にて、マチノワさんと連携し、子育て世代の方に向けた講座などを開催しています。今後は、弊社の大学連携や自治体とのネットワークを活かし、次世代を担う若者・学生にも活動へ参加してもらうことで、マチノワさんの活動の幅をさらに広げていただきたいと思います。地域にあたたかな居場所と活力が生まれることを願い、これからもマチノワさんを応援してまいります。

事業基盤支援・寄付

株式会社クラッシー様



企業スポンサーとして、創業支援ブースの無償提供や企業関係者へのPR機会、植田社長様へは事業相談の機会をいただきました。ご支援とネットワーク提供により、活動基盤強化につながっています。



代表取締役
植田 貴世子 様

弊社は「くらしを整え、世界を変える」をミッションとし、生活総合支援企業としてコンシェルジュサービス・家事代行・保育サービス・くらしラボの4つの柱で、人々の暮らしに寄り添い価値を提供しています。マチノワさんの地域に根ざした暮らしを支える活動は、当社の理念と共鳴すると確信しております。私たちが長年にわたり培ってきた「お客様の本質的なニーズを解く力」や「生活を豊かにする総合サポート」を活かし、少しでもお役に立てる場面がありましたら、ぜひ気軽にお声がけください。

社員向け交流会開催

株式会社阿波銀行様



育児休暇中の職員さんが子連れで交流できる場として、居場所での育休者交流会を開催いただいています。つながりを育み、子育てや復職への不安軽減を応援しています。

物資提供・寄付

株式会社シケン様



子ども用歯ブラシのご寄付は、居場所でのイベントに参加する親子にとって、地域からのあたたかい応援が見え、はじめての来所へとつながるきっかけにもなっています。

イベント協働・寄付

株式会社COLORS様



産前産後の親子を対象とした写真撮影の機会提供により、継続的な関係づくりを支えていただきました。出産後の居場所利用継続率100%につながっています。

食品提供・寄付

一般社団法人キラニコ様



パンやお菓子などの定期的なご寄付により、参加者同士が一緒に食べる時間がうまれ自然な対話とつながりが広がっています。売上寄付など継続的な地域貢献を実践されています。

物資提供・イベント協働

株式会社TimeMarket様



「今、必要なものは？」と継続的に声をかけてくださり、オムツなどをご寄付いただきました。イベントでは無償で体験ブースをご提供いただき、交流の機会を広げてくださいました。

食連携・イベント協働

はれいろキッチン様



イベントへの出店協力や赤ちゃん食堂、日常のランチタイムでの連携を通じて、親子の栄養を支えながら、みんなでゆったり過ごせる機会をご提供いただきました。

物資提供

株式会社イルローザ様



阿波晩茶のご寄付は、居場所ですっきりと一息つく安心時間を支え、県外出身の親子にとって地域との大切な接点となり、徳島の魅力を伝える機会にもなっています。

寄付

一般社団法人watas様



「サンタがおうちにやってくる！徳島」プロジェクトに集まった支援金のご寄付により、マイクスピーカーとテーブルを購入し、あたたかな場づくりに活用しています。

専門職連携・寄付

ベリー訪問看護ステーション様



「医療的ケア児の日」開催にご協力いただき、専門職の見守りのもと、保護者が交流できる安心の場を実現し、孤立予防にもつながっています。

年間活動計画

活動種別	2025年										2026年		
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	
居場所 週4～5日開所	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	
ファンドレイジング 毎月2回定例ミーティング	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	
広報 営業・講演会活動	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	
報告 年2回報告会											●	●	
アンケート 利用者へ実施	●			●			●				●	●	
	評価委員会開催			スタートアップ交流会 開催			利用者アンケート実施					報告書作成	
											ロジックモデル完成		
												感謝報告会 開催	



ファンドレイジング委員会

准認定ファンドレイザーをアドバイザーに招き、ロジックモデルで整理した目的と成果をもとに、寄付・スポンサー連携・助成金申請等を通じて安定的な財源確保と、持続可能な活動基盤の構築に取り組みました。



会計委員会

法人の会計業務全般を適切に管理し、会計事務所からの専門的な助言を受けながら、予算・執行・記録を整備します。透明性と健全性を確保し、信頼される運営と持続可能な法人基盤を支えることを目的とします。



広報委員会

企業・行政・地域への広報活動を通じて活動の認知を広げ、支援の輪を拡大することを目的とします。広報物の制作、SNS運用、ブース出店、取材対応など発信体制を整え、必要な人に情報が届く導線づくりと関係づくりを進めます。



居場所推進委員会

安心して集える居場所の企画・運営・管理を担い、参加者やボランティア等とのつながりを育みながら、交流や相談につながる環境づくりと日常の居場所機能の充実を進め、サポートの質を高めることを目的とします。



安全対策委員会

安全対策および緊急時対応の体制を整備し、関係者全員が安心して参加できる環境を維持することを目的とします。施設の指定管理者等と協力して訓練を実施し、連絡体制や備品・マニュアルの確認を通じて安全性を高めます。



コンプライアンス委員会

定款や規程の整備・遵守状況を確認し、透明性と公正性を確保することで、信頼される法人運営体制を実現することを目的とします。必要に応じて規程や運用を見直し、個人情報の適切な取扱いやリスク管理も含めた組織づくりを進めます。

活動実績



2021年01月 オンラインコミュニティ「ママノワ」立上げ

2021年03月 お花見イベント開催 30名参加

2021年10月 徳島市沖浜に居場所「みんなの茶の間」オープン

2021年11月 子育てイベント開催 100名参加

2022年05月 居場所「みんなの茶の間」を週2日オープン

2023年02月 とくしま孤独・孤立対策官民連携プラットフォーム登録

2023年04月 NPO法人徳島の子育てに伴走する会マチノワ設立

2023年05月 4地域で出張居場所「みんなの茶の間」オープン

2023年09月 東部防災館おきのすいんどアパーク内に移転

2023年09月 大日向雅美先生基調講演開催 150名参加

2023年10月 クラファンで230名から297万9千円が集まる

2023年11月 居場所を週5日オープン 常時30名程が利用

2024年02月 子育てひろば全国連絡協議会登録



2024年04月 WAM通常助成（国庫補助金財源）採択

2024年05月 徳島県立総合看護学校 実習受入スタート

2024年05月 徳島県庁新規採用職員「地域交流体験研修」受入スタート

2024年06月 徳島県こども計画「とくしまこども未来会議」参画

2025年04月 WAM通常助成（国庫補助金財源）採択

2025年05月 machinowa design labo スクールスタート①

2025年06月 「徳島県住生活基本計画評価検討委員会」委員として参画

2025年09月 徳島県庁後藤田知事表敬訪問「赤ちゃん食堂」受賞報告②

2025年09月 坂出市社会福祉協議会視察研修会受入れ③

2026年05月 徳島大学「行政施設内併設育児支援施設に関する研究」協力

2026年05月 「徳島テレコベース」オープン・業務委託契約④

2026年01月 徳島文理大学大学院博士課程「妊婦さんへの研究」協力

2026年02月 徳島大学「抑うつ傾向の母親への研究」インタビュー協力

ヒアリング評価

利用者へのアンケートでは約7割が初産婦で、1歳未満のこどもを子育て中の方が最も多い結果でした。8割以上が「満足」と回答し、開室時間やイベント内容、スタッフ対応など多くの項目で好意的に評価されています。利用後の気持ちの変化についても、半数以上がポジティブな変化を感じていることが分かりました。

一方で、利用者の約2割には産後うつ、またはそのリスクが示されており、ハイリスク層に対する予防的・個別的な支援の必要性も明らかになりました。安心できる居場所としての役割を維持しつつ、丁寧な関わりを通して支援を受けやすい環境を整えることが求められます。

今年度は、妊娠期から産後・子育て期に至る切れ目のない支援を目的に、マタニティサークル、赤ちゃんの日、専門職相談日（助産・心理・発達等）など、昨年度までの居場所事業の内容を拡大しました。利用実績および業務日誌の記録を分析した結果、以下の成果が確認されています。

徳島県内の産前産後の現状

エジンバラ産後うつスケール

- ・情報がわからない
- ・育児の方法がわからない
- ・頼れる人が全くない
- ・自分を傷つけてしまう

9点以上
33%

9点 ……3%
10点 ……15%
12点 ……15%



みんなのお茶の間

にんぶ・おやこ・ちいき・みんなの居場所



それぞれの輪が混ざりあい、重なりあい、支えあう。
そして、親も、地域も、育ちあう。マチノワ、ぐんぐん成長中。

支える 先輩マチノワ

子育てひと段落、ちょっと先輩が集まって作る人の輪。支える先輩マチノワ。

共に悩む 共助マチノワ

子育て真っ最中の悩む世代が集まって助け合ってる人の輪。作る、共に悩む共助マチノワ。

見守る 地域マチノワ

子育ては未来/過去、若者やお年寄り、地域人材が見守る人の輪。見守る地域マチノワ。

今年度の工夫：妊娠期～子育て期に至る切れ目のない支援を目的に居場所事業の内容を拡大

妊娠期からの継続利用の定着

マタニティサークルの利用者は年間を通して継続的に確保されており、イベント（撮影会等）を前面に出した広報により新規参加が促進されました。月別利用は2026年4月は2名から始まり、夏季には5～6名程度まで増加するなど一定の需要が確認されたといえます。また、妊娠期に来所した利用者が産後の居場所（赤ちゃんの日、日常的な利用）へ移行する割合は100%となっており、妊娠期からの関係形成が産後の孤立感・不安の軽減に寄与していることを示しています。

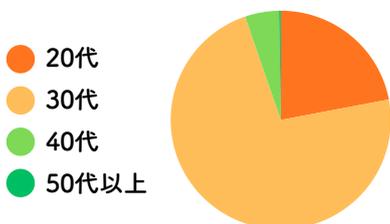
居場所を基盤とした専門職相談の利用促進

助産師相談（助産師の日）、心理相談（こころの保健室）、発達相談等の専門職配置日については、各月で一定数の利用が継続しており、助産相談においては1回に15組程度の利用が確認されることもあり、安定したニーズが示されています。自治体を実施する専門職相談は参加者が集まりにくいという一般的な課題が指摘されていますが、本事業では「日常的な居場所」という基盤があることで相談利用の心理的ハードルが下がり、自然な形で専門支援につながることがうかがえます。

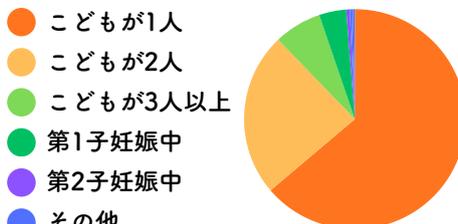
初回利用者の増加と多様なニーズへの対応

初来所する利用者の割合が増加していることが確認され、居場所の認知が着実に広がっていると考えられます。特に、妊娠期からの利用、初産家庭の参加が増えており、地域の子育て支援の入口としての役割が強化されているといえます。また、イレギュラー開催であったキャリア相談会についても複数名の利用があり、共働き世帯の増加や復職への関心の高まりを背景に一定のニーズが確認されました。また、個別相談（心理・発達・生活等）についても一定数の利用があり、幅広い相談窓口として機能しています。

参加者の年代



参加者の家族構成



居場所利用のきっかけや理由



事業評価

今年度、居場所の持続可能な開所と地域を越えて産後うつや孤独・孤立を解消していくことを最終目標に据え、その実現に向けた基盤整備に重点的に取り組みました。

まず、大きな柱として取り組んだのが、事業を自走させるための仕組みづくりです。

一部イベントの有料化を進める一方で、利用者の負担が増えないよう、徳島市の子育て関連クーポンが利用できる事業所として認定を受けました。参加のハードルを上げずに、事業費を確保していく形を模索してきました。また、企業との協働やスポンサー制度の検討も進め、継続的な運営に向けた基盤づくりを行いました。

運営面ではロジックモデルを作成し、なぜこの活動を行うのか、何を目指しているのかを内外にも共有できる形に整理しました。

財政基盤

持続可能な運営体制の構築

- 一部イベントの有料化
- 行政クーポン利用対象のサービス提供事業者認定
- パートナー・スポンサー制度

組織基盤

目的と役割の共有

- ロジックモデル作成
- 自発的運営体制
- ロゴマークや資料の見直し

社会基盤

地域との関係性の拡張

- 講演会活動
- 行政連携
- 受賞による認知拡大

ロゴマークや寄付や協力をお願いする際の資料も見直し、活動の目的や意義が伝わる内容に整えることで、活動の軸をはっきりさせる作業ができた一年だったと感じています。

また、講演活動や各種会合への参加、行政委員会での意見交換などを通して、少しずつつながりを広げてきました。

その中でいただいた「ベスト育児制度賞（孤立・困難抑止部門賞）」や「男女共同参画・少子化関連顕彰事業（程ヶ谷基金）」での受賞は、活動を客観的に評価していただいた出来事であり、他の団体様の活動を知ることで、新たな連携や認知拡大にもつながっています。

今年度全体を通して、将来にわたり居場所を継続していくための土台を固めた一年でした。

また、ロジックモデルを関係者と共有できたことで、それぞれが役割を担う自発的な運営へと繋がっています。居場所を守ってくれているからこそ、外への働きかけを進めることができました。

今後は、見守り人材の育成、企業パートナー・スポンサーとの連携強化、活動の見える化を進めていきます。そして、居場所を継続しながら、その取り組みを地域の枠を越えて広げ、産後うつや孤独・孤立の解消につなげていきたいと考えています。

評価委員会アドバイザーからの講評



企業連携による地域基盤の構築

林田 寿美礼

企業との連携によるファンドレイジングは、相利の面においても資金支援にとどまらず、企業や地域の人々が子育ての課題を自分たちの身近な問題として捉える機会を生み出しています。その結果、「支援する側」「支援される側」という一方的な関係を越え、地域の中で互いに支え合う関係づくりが進められており、社会的に求められる地域のつながりを育み、深める上で重要な役割を果たしています。

また、得られた知見やスキルを活かし、これまで支援が届きにくかった家庭にも目を向け、声を丁寧に拾い上げながら必要な支援を確実に届ける準備を着実に進めている点は高く評価できます。声を上げにくい家庭への関わりと、一人ひとりの状況に応じたサポートを大切にすることが、地域をより良くする継続的な取り組みへとつながっています。

マチノワの活動は、人と人、家庭と地域をつなぐ役割を担いながら、子育て世代のみならず、地域の中で孤立させない社会づくりに向けた基盤を着実に築いており、今後十分な準備を重ねた支援の枠組みが実現することで活動の効果がさらに広がっていくことが期待されると考えられます。



専門連携とPDCAによる基盤強化

四国大学短期大学部
幼児教育保育科 准教授

姫田 知子

心理職や助産職との連携を深め、親子が自然に場につながる機会が広がったことは、本年度の大きな成果であったと感じます。こうした取り組みは「支援を受ける」ことへの心理的ハードルを下げ、必要ときに専門職や居場所へつながりやすい環境づくりに寄与しています。日常的な安心感と専門的視点が重なり合うことで、早期の気づきや丁寧な関わりにつながっている点が印象的でした。

また、利用者アンケートを継続的に実施し、結果を活動に反映している点も大きな強みです。産後うつのハイリスク層の可視化や地域ニーズの把握を通じ、支援内容の改善につなげています。実践に基づくデータを活用し、PDCAサイクルを着実に機能させている点は、本事業の質の担保に貢献しているといえます。

今後は、これまで積み重ねてこられた活動を大切に継続しつつ、取り組みの役割や効果を見極め、重点を置く部分を整理していくことが期待されます。明らかになってきた地域の課題やニーズに寄り添いながら、温かさや専門性を活かした支援体制が、さらに充実していくことを願っています。

来場実績

年間を通して週4～5日、居場所を開所しました。関係機関やSNSを通じて地域の学生・一般の方のボランティア参加が広がり、運営を支える輪が育っています。

年間約400世帯が利用し、2024年の徳島県出生数（3,716人）と比較すると新生児世帯のおよそ1割に相当する規模となりました。

期 間	2025年										2026年			合計
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月		
登録世帯数	54	35	46	31	34	45	44	27	27	21			364	
参加者延人数	190	234	210	214	256	278	374	316	369	262			2703	
ボランティア人数	6	9	13	15	11	26	8	6	5	7			106	
開催日数	16	17	19	18	16	17	20	16	17	17	19	17	209	

2025年度に寄せられた参加者メッセージをご紹介します！

ウェブサイト（右記QRコード）で、居場所に居場所にお越しくくださった参加者の声を紹介しています。みなさんの応援や協力が地域の親子を支えています。



相談できる
仲間ができて
うれしい！

産後の
孤独な気持ちが
楽になりました

受賞歴

- 2022年10月 「とくしま子育て大賞」 チーム育児部門受賞
- 2024年03月 第17回「未来を強くする子育てプロジェクト」 スミセイ未来賞受賞
- 2025年05月 「赤ちゃん食堂」 ベスト育児制度賞 孤立・困難抑止部門賞受賞①
- 2025年12月 程ヶ谷基金「男女共同参画・少子化に関する顕彰事業」 奨励賞受賞②

メディア掲載

- 2022年02月 徳島新聞・徳島県子育て支援情報はぐくみ掲載（任意団体として）
- 2022年09月 四国放送フォーカス徳島「産後うつ特集」出演
- 2023年06月 徳島新聞・徳島県子育て支援情報はぐくみ掲載（NPO法人として）
- 2023年09月 四国放送フォーカス徳島「NPO法人活動紹介」特集番組放送
- 2023年11月 「NPO法人活動紹介」記事掲載徳島県広報誌・県政だより OUR徳島
- 2023年12月 時事通信社・厚生福祉「地域を支える記事」掲載
- 2024年02月 NHK徳島放送局「NPO法人活動紹介」出演
- 2025年07月 ワイヤートクシマ「おやこの居場所をつくる人」特集掲載③
- 2025年06月 徳島新聞デジタル・コラムスタート「出張マチノワ to トクシンデジタル」
- 2025年09月 徳島新聞「乳幼児らがいる家庭に食材プレゼント」記事掲載
- 2025年11月 徳島経済研究所「徳島経済」インタビュー掲載④
- 2025年11月 共同通信社「危機の妊産婦に支援の手を」記事・全国地方紙に掲載⑤
- 2025年12月 「徳島テレコベスオープン」徳島新聞記事掲載・四国放送ニュース放送情報誌startt「徳島テレコベスオープン」記事掲載⑥
- 2026年01月



応援メッセージ

本活動にご理解いただいている皆様より応援メッセージをお寄せいただきました。掲載は敬称略とし、お名前の五十音順にてご紹介しております。



徳島大学 総合科学部地域創生コース
地域計画学研究室
市橋 美玖 様

先輩の紹介で活動を知り、アットホームな雰囲気や幅広い活動に魅了され「行政施設内に併設された非行政セクターが運営する育児支援施設の役割に関する研究」というテーマで卒業研究の対象にさせていただきました。調査を通して悩みを抱える方が安心して過ごせる居場所をつくりたい、心の拠り所になればという思いが詰まった唯一無二の空間だと感じました。一ファンとして、これからも活動を応援しています。



徳島商工会議所 会頭
川島 周 様

人口減少が進む現在、子育て世代が安心して暮らし働ける地域づくりは喫緊の課題です。家庭と地域をつなぎ、当事者に寄り添うマチノワの活動は、徳島が子育て世代に選ばれる地域となるために必要です。商工会議所としても、多様な働き方や仕事と育児を両立できる働きやすい職場環境の整備支援に取組んで参りますので、マチノワの活動と志が地域と働く人に優しい未来を育むことを期待しています。



徳島県自治交流センター 所長
倉橋 文代 様

徳島県庁の新規採用職員を2日間「地域交流体験研修」の研修生として受け入れてくださり、ありがとうございました。新採職員にとって、地域の皆さんと一緒に仕事をすることの大切さを学ぶとてもよい機会になったと考えています。妊婦さんや子育て中の人…どんな人にも居場所は必要です。街の居場所「マチノワ」がこれからもどんどん広がっていくよう応援しています。



特定非営利活動法人
とくしま県民活動プラザ
福良 佐知代 様

マチノワさんには、年間を通して、とくしま県民活動プラザの「おためしボランティア」をたくさん受け入れてもらっています。ボランティアのみなさんが育児に触れ合い、地域とつながるきっかけを作ってくれ、大変感謝しています。今後も益々、マチノワが地域の中での「まちの輪」となり、つながり、育ちあうことを願ってやみません。

地域支援
= 相利共生

家庭・地域・企業・行政・専門機関がそれぞれの役割を担い協働できている。支援する側/される側に、固定されない循環が生まれ、相利共生の関係性が広がっている。地域資源が可視化され、連携が機能している。

暮らし支援
= 孤立への支援

困りごとが顕在化する前から、適切な支援資源につながっている。必要な時に相談・支援を利用できる状態が定着し、孤立が緩和。生活の不安や負担が軽減し、暮らしが安定している。



企業
行政
教育

生活状況に寄り添う
各家庭への
訪問支援
実施
★

経済的・心理的
負担を軽減する
物資支援
実施

福利厚生サポート
SDGs・CSRの取り組み
推進のための
企業連携
協働事業

妊娠期の
予防的支援ツール開発
大学協働研究
★

妊娠出産子育て期の人の
声を届けるために
行政会議や
協議会への参画

企業・行政・専門機関と
相互理解を深めるための
活動報告
情報発信

地域の状況を
知る人を増やすため
学生研究、実習
行政研修受入れ

医療
保育
福祉

安心して相談できる
専門家相談会
開催

支援の輪を広げるため
ボランティア養成
異業種交流
実施

住民

みんなのお茶の間
にんぶ・おやこ・ちいき・みんなの居場所

支える
先輩マチノワ

ともに悩む
共助マチノワ

見守る
地域マチノワ



相談・食・交流を
支援する
赤ちゃん食堂
実施

あたたかい地域の
ボランティアを養成する
見守りさん研修
実施

社会の問いに
デザインでアプローチし
発信するための
スクール運営

女性や子育て中の方が
潜在的なスキルや
キャリアを活かせる
環境作り

いつでも相談できる
LINE個別相談
実施

いつでも
交流・情報交換できる
LINEチャット
運営

居場所への
初来所やつながりの
ハードルをさげる
各種イベント
開催

エンパワーメント
= 自分で選べる力

妊娠～子育て期の人の生き方・働き方・関わり方の選択肢が広がり、状況や希望に応じて自ら選び、行動できている。経験や強みを活かし、担い手として関わる人が増えている。

多様なスキルを
身につけるための
研修会実施

SNS

**machinowa
design
labo**

認定NPO法人化を
見据えた
組織整備

つながり支援
= 孤独への支援

妊娠～子育て期の人が安心してつながれる関係性を持っている。「ひとりではない」と感じられ、孤独感が軽減している。互いに支えあう、ゆるやかなつながりが日常に育っている。

次年度は、妊娠期から産後までを切れ目なく支える体制の強化を重点方針とします。マタニティ期からの参加者が産後も継続利用している実態から、妊娠期支援は孤立予防の観点で極めて重要であると整理されました。今後は、妊娠期からの利用導線の強化、医療機関・行政母子保健との連携、産後サービスへの円滑な移行支援を体系化し、産前産後支援を事業の柱として明確化します。

あわせて、専門職相談やキャリア相談へのニーズを踏まえ、NPO独自の支援体制を整理するとともに、自治体・医療・療育・ハローワーク等の関係機関との連携を強化します。地域資源をつなぐ窓口としてのハブ機能を段階的に整備し、必要な支援へ確実につなげる仕組みを構築します。相談導線や連絡体制、紹介フローを標準化し、支援の抜け漏れを防ぎます。

さらに、居場所の公益性を維持しながら、撮影会やリズム遊び、ハイハイレース、マルシェ出店等の独自イベントの一部有償化を含む自主財源の確保を検討し、補助金や寄付に過度に依存しない持続可能な運営モデルを具体化します。支援の質と事業の継続性を両立させる体制づくりを進めていきます。あわせて、成果の見える化と検証を行い、改善を重ねながら実装を進めます。

産前産後を「ひとりにしない」セーフティネット事業

本事業は妊娠期から安心して支援につながり、産後も継続的に頼れる関係を築ける環境を整えることを目的とします。マチノワでは、ピアに支え合える居場所の継続運営と専門職・関係機関と連携した支援を行ってきました。妊娠期から関わった利用者の産後リピーター率は100%であり、妊娠期からの関係性が頼れる支援資源として機能することが確認されています。そこで、妊婦向けに「頼れる人・使える資源」チェックリストを作成し、産婦人科等の様々な場での実施と運用を目指します。あわせて、妊娠期から出産直後までを一体的に支える訪問支援体制（家事育児支援・寄り添い）を整備し、産前産後すぐに支援を求めにくい家庭にも届く仕組みづくりを進めます。

今年度の課題

今年度は基盤整備を進めましたが、居場所に来られない家庭への支援導線、妊娠期からの予防的介入の仕組み化、持続可能な収益構造の確立が今後の重要課題として整理されました。次年度はこれらを具体化し、実装段階へと進めていきます。

計画 ① 居場所の提供

子育てをする人たちに対して、妊婦や子育て中の人同士、地域住民同士がピアとして支え合える居場所を提供しています。スタッフやピア、地域ボランティアが関わることで、孤独感・孤立感の解消につなげています。また、必要な専門的ケアを受ける機会が少ない子育てをする人に対して、助産師や心理士、保育士等と連携し、居場所にて相談会やイベントを開催しています。妊娠から子育てまでの各フェーズで生じる負担・悩み・不安に寄り添い、産後うつを予防しています。さらに、地域の高齢者や若者等にもボランティアとして関わっていただくことで、地域全体の孤独・孤立予防を目指しています。子育てが家庭だけでなく地域住民にとっても、安心して集えるサードプレイスとしての役割を果たしています。

① 居場所の提供

週2日程度・参加費無料

② 赤ちゃん食堂の開催

月1日・参加費無料

③ 講習会・イベントの開催

週2日程度・参加費有料

④ 物販

⑤ 関連機関の窓口の連携強化

計画 ② 社会資源連携型妊婦サポートチェックシート等の開発

妊婦が妊娠期から自らの支援環境を振り返り、「頼れる人・使える資源」を可視化できるチェックシート等を作成することで、困りごとの早期把握と予防的な備えを促します。助産・看護分野の専門知見を有する大学と連携して開発することにより、妊娠期特有の心身の変化や家庭の実情に即した、信頼性と実用性を備えた支援ツールを開発します。

① 大学との連携

助産・看護分野を専門とする大学と連携し、妊娠・出産期の心身の変化や不安の特性を踏まえた設問を設計します。妊婦が妊娠期から自身の支援環境を整理し、「頼れる人・使える資源」を可視化できるチェックシート等を作成します。

② 汎用性の高い支援ツールとしての展開

完成したツールは、居場所事業や個別相談に加え、産婦人科等の医療機関でも活用できる内容とします。特定の地域や団体に限定しない構成とすることで、他地域・他機関でも活用可能な支援ツールとしての展開を目指します。

計画 ③ 訪問支援体制の整備

妊娠期から出産直後までを切れ目なく支える訪問支援体制を整備し、家事・育児の支援や寄り添いを通して、産前産後の孤独感や不安の軽減を図ります。妊娠期からの関わりを通じて、産前産後すぐに支援を求めにくい家庭にも支援が届きやすい仕組みを構築するとともに、父親や家族への家事・育児レクチャーも行い、家庭内の支え合いを促進します。

① 訪問支援の立ち上げに向けた体制整備

訪問支援を実践している専門職をアドバイザーとして招き、訪問時の関わり方、リスク管理、支援者の役割整理等に関する研修会を実施します。あわせて、スタッフ・ボランティアの役割分担、専門職・関係機関との連携方法、支援の流れや記録方法等を整理し、安心安全に実施できる訪問支援の組織体制を構築します。

② モニター家庭へのヒアリング調査

モニター家庭に対して、妊娠期から出産直後までを一体的に支える訪問支援（家事育児の支援、寄り添い）を実施し、支援ニーズや効果、課題等を把握するためのヒアリング調査を行います。結果をもとに支援を求めにくい家庭にも届く仕組みづくりを進めます。

machinowa partner & sponsor

こどもも、おとなも、笑顔で過ごせる「地域の未来をつくる挑戦！」
子育てを支える仲間として、いっしょにマチを育てていきましょう。

子育てを、家庭だけの責任にしない！

地域インフラとして妊娠～子育て期のセーフティネットを育てます。

パートナーは「企業の中の安心」を育てる応援。

スポンサーは「企業の外の評価」につながる応援。

地域の一員として、子育てを支える仲間になりませんか。

私たちは、2021年にボランティア活動からスタートした非営利団体です。現在も行政からの委託等を含む事業費は十分でなく、助成金やクラウドファンディング、そして日々のご支援により活動を維持してきました。みなさまとのつながりを深め、居場所を継続し、地域を未来につなげていくために、この参加制度をスタートします。ご協力をお願い申し上げます。

地域の未来をともにつくる参加制度

① 企業パートナー制度 福利厚生型

年額 **120,000** 円～ ▶従業員向け
(内向き支援)

特典

社員・家族がマチノワを利用できる(優先案内)
妊娠～子育て期の社員へ「居場所・相談先」を案内
企業向け「子育て/メンタルケア」講座(年1回)

効果

人材流出リスクを下げ、復職を後押しする
メンタル不調の早期予防につながる
「子育てにやさしい会社」として社内安心感UP

② 個人会員制度 応援型

年額 **3,000** 円～

特典

活動報告書を受け取れる
感謝報告会へ招待
会員として活動を応援できる(継続的な支え)

効果

「ひとりじゃない」を守る土台になる
地域の子育てを支える仲間が増える

③ スポンサー制度

企業スポンサー 応援型

年額 **120,000** 円～ ▶地域向け
(外向きCSR)

特典

公式サイト・広報物・居場所でもロゴ掲載
商品・サービス・採用などのPR
感謝報告会での紹介

効果

単なる寄付ではなく「地域ブランディング投資」
妊娠～子育て期の家庭との信頼接点が増える
採用広報で語れる「地域での実績」が増える

個人スポンサー 応援型

年額 **10,000** 円～

特典

公式サイト・広報物・居場所でお名前掲載
活動報告書を受け取れる
感謝報告会での紹介

効果

地域を応援する“個人の意思”を可視化できる
地域を支える意思が“見える形”で残る

QRコードからサイトへ進み、
制度への登録・決済ができます。
銀行振込の方は、お手続き後、
事務局までご連絡ください。



阿波銀行(0172) マリンピア支店(132)
普通預金 □座番号: 0214930
特定非営利活動法人徳島の子育てに伴走する会マチノワ

寄付、物品、食材等のご支援を受付けています。
講演、ワークショップ等の講師依頼を承ります。
デザイン、広報業務の受託も可能です。

[ご支援の使い道]
居場所の光熱費、消耗品購入、食材費、
ボランティア・講師の謝金、交通費など



特定非営利活動法人
徳島の子育てに伴走する会
マチノワ

〒770-0873 徳島県徳島市東沖洲1丁目8
東部防災館おきのすインドアパーク 3階
TEL 080-1142-3386 MAIL info@machinowalive.com

居場所の開催情報やお知らせは、公式LINEでチェック！

